

■■■ 2016年度総会開催 ■■■

2016年5月21日、KFCの2016年度総会を開催しましたので概要を報告します。

総会に先だち例年通り、KFCの全体学習会を開催しました。テーマは、「外国人利用者の対応の難しさ」で講師は、グループホームハナの森佳緒里3Fフロアリーダーが担当しました。居宅介護支援介護事業（ケアプラン作成担当）担当時からいままでケアマネージャーとして経験したこと、施設に移動してから小規模多機能型居宅介護の計画作成担当者として経験してきたこと、現在のグループホームフロアリーダーとしての経験のなかで日々直面する文化や言語、生活背景の異なる利用者と家族との困難なやりとりの状況と対処を時にはユーモアを交えながらわかりやすく話してくれました。

印象に残ったのは、多文化な背景を持つ要介護高齢者の家族において、要介護高齢者の介護方針を決めるキーパーソンが決まりにくいという話でした。

学習会参加者からもその状況についてさまざまな意見が出ましたが、制度を利用する側が持つリテラシー（情報や知識の活用能力）を高める必要性を考えさせられた学習会でした。

休憩を挟んで2016年の総会が開会し、成立宣言、開会あいさつ、議長選任に続いて第1号議案として2015年度事業報告、収支決算、監査報告が行われました。

事業報告では、井植文化賞、読売福祉文化賞、国際交流基金地球市民賞受賞という外部からの大きな評価などとともに各部門・プロジェクトにおける着実なあゆみも報告され、成果の大きかった2015年度事業の進捗が確認できました。一方法人職員による人権侵害行為や資質向上の必要性も報告され事業の拡大、発展とともに考えなければならない人材の教育・育成の課題も明らかになりました。収支決算、監査報告においては、各部門の努力と副賞賞金の授与もあり、安定した収支状況が確認され、監査状況においても問題がないことが報告されました。

第2号議案として上程された役員改選においては、昨年まで監事に就任していた片田孫朝日監事が理事に就任、かわって監事にはあらたに明石和成監事が就任する役員体制が承認されました。

つづけて第3号議案として、2016年度事業計画及び収支予算案が審議され、2016年度中（2017年2月11日）に20周年を迎えるKFCの記念事業開催を確認しました。各部門・プロジェクトからの方針も提起され、木曜日、休止していたデイサービスセンターハナの会は、ベトナム人高齢者らの受け皿曜日として新たに開設するなども承認されました。その他にも地域の子どもが置かれている厳しい状況を考え、子どもを背景を問わない（外国にルーツを持つ子ども以外も対象）形で「子ども食堂（「KFCみんなのダイニング」という名称に決定）」に取り組むことも確認しました。

KFCとしての今後の大きな方向としては、KFCの事業規模、事業対象の内容が「外国人支援」の枠を超えている現状と事業を支えている人間の多様性（さまざまな経緯で「移民」してきた人との協働で事業が進められていること）を踏まえ、次代を見据えたイノベーションを名称の変更、組織形態変革も含め検討・推進することも確認しました。

あわせてKFC事業の必要性は、兵庫県・神戸市以外の地域でも必要とされていると考えられることから他地域での活動展開の可能性を研究し、他団体へのマネジメント協力も含めKFC事業の広域での展開を検討していくことも確認しました。

（理事長 金 宣 吉）

---

## ◆2016 KFCハルモニと行く故郷(コヒャン)ツアー(5月27日(金)~29日(日))

「韓国にいきたいねん」。

「ハナの会」に通う一世、94歳のハルモニの一言から始まった。理事長の金宣吉さんが「孫世代であるKEY（在日コリアン青年連合）のメンバーがサポート役で参加してくれたら」と声をかけてくれた。ハナの会のボランティアであり、KEY兵庫会員でもある鄭信義さんが多くの寄付を出してくれた。ベテラン介護スタッフの方々と、神戸市立看護大学の相原洋子准教授が同行され、KEYから6名が参加させてもらった。事前に行われた研修会で、車椅子の操作方法や、ハルモニたちの安全を確保するための注意点を教わった。

初日。無事に釜山・金海空港に到着。今回のツアーの最大の目的は、ハルモニたちが祖国の地を踏み、無事に長田に帰ってくることに。そこに私たち孫世代がサポート役として同行することそのものに、世代がつながる意義がある。

空港から宿泊先のコモドホテルに到着。外装は朝鮮寺院を思わせ、内装も豪華絢爛だ。せっかくの祖国訪問、日本にもありそうなホテルより、なるべく伝統的な雰囲気、という理事長の心遣いであった。

夕食の席。釜山大学・社会学研究院の教授や研究員の方々が歓迎してくれた。今回の観光プランニングをいただいたイ・ヘジンさん(蔚山市女性家族開発院副研究委員)も加わり、少し緊張気味だったハルモニたちに、次第に笑顔が増えていった。

二日目は、まる一日釜山の観光。若者の役割はハルモニたちの安全確保と、徐々に増えて行く買い物袋を持つこと。

太宗台展望台から見下ろせば、絶壁に緩やかな波が打ち上げられている。ハルモニたちは祖国・釜山の自然風景をじっと見つめていた。ある猫好きのハルモニは、なぜか展望台にいる大きな野良猫（日本の1.5倍ほど）を愛でていた。釜山の展望台でも、普段の長田の生活と変わらない、どっしりした感覚を垣間見た。

国際市場へ行き、ハルモニたちは化粧品、財布、小物入れなどを購入。ヘルパーの方は布団を買っていた。『元山麵屋』にて昼食。有名なお店で、お客さんが次々入って来る。人気の冷麺と巨大な饅頭（マンドゥ）を堪能した。

ロッテマートで、海苔、お菓子、お茶など、お土産も含めてたくさんショッピング。あるハルモニが、アカシア100%の高級蜂蜜を求めたが、無い。この瞬間から蜂蜜購入がミッション化された。

この旅一番の思い出は、チョゴリの試着体験だ。ハルモニたちの楽しそうな表情は忘れられない。一番年長のハルモニは、頑なに「着ない」といつていたが、現地スタッフの説得の末、みんなを着せて写真をパチリ。絶妙な表情であった。

夕暮れになる頃、海雲台の海岸沿いを一時間ほど散策した。ほとんどのハルモニは先にカフェで休んでいたが、あるハルモニだけ話し続けながらフルコースを歩ききった。

最後の夕食は石焼ビビンパなど、健康的な韓定食。食後、別のマートで高級蜂蜜を発見。20万ウォン分お買い上げ。ハルモニの話では、日本で買えば約4倍の値打ちがあるらしい。見事、ミッション達成である。

最終日、朝食にアワビ粥をいただく。一食3千円するだけあって、プリプリのアワビの身が美味だ。旅の最後をしめる朝食となった。無事に飛行機は関空へ到着。旅の目的は達成した。ふと、私たちが同行した意義を改めて振り返る。

今回のツアーは、家族旅行でもなければ、友人との単なる観光旅行でもない。道中は、常にハルモニたちの安全に配慮するという慣れないこともあり、あっという間に時間が過ぎた。もっとハルモニたちと話をすればよかったという思いに駆られる。それでも、すでに不思議な満足感を得てい

る。一言で言えば、無事にハルモニたちが祖国を満喫できてよかった。二言目は、それに貢献できてよかった。世代をつなぐ体験はこれ以上言葉では表現できないのかもしれない。

在日コリアンが植民地支配によって生み出された「歴史的存在」であることは事実だ。その存在意義をルーツ、民族、自己解放などの言葉で表現されることはよくある。でも、身体で体感する経験は稀だ。今回のツアー参加の機会を与えていただいた皆さまに、感謝申し上げます。

(在日コリアン青年連合 (KEY) 李明哲)

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆「にほんごカフェ」 開催

6月5日(日)、デイサービスセンターハナの会の場所をお借りして、にほんごカフェを開きました。KFC日本語教室は午前、午後、夜間など毎日様々な国の学習者が通い、地域で生活する外国の人たちの日本語教室として定着しています。その中で私たちボランティアは、小さい子どもさんのいるお母さんたち、仕事で学習の時間がなかなか取れない、など忙しい人たちが気軽にちょっと立ち寄って話をする場所があったらいいね、と「にほんごカフェ」を開くことにしました。

当日は午前10時に開店し午後4時まで開きました。インド、ベトナム、スイスの学習者、その家族の方々、お友だちなど合計9人のお客さんが来てくださいました。その日の飲み物メニューはコーヒー、紅茶、日本茶、ジュース、そして抹茶です。飲み物のほかには、学習者の奥さん手作りのレモンケーキやクッキー、おせんべい、チョコレートなど美味しいものが集まり、飲みながら、食べながら話をする楽しい時間を過ごしました。

カフェ開店の間には、オノマトペことばの練習もしました。ぷんぷんおこる、すらすらよむ、など手作りカードでのクイズ形式の練習です。熱心にメモを取る人もいて楽しい雰囲気です。学習意欲も上がったのではないのでしょうか。お母さんと一緒に来た子どもは、輪投げや折り紙などをして時間を過ごしてもらいました。

この度は、初めての試みとして開いたカフェですが、気軽に来て、楽しく日頃の生活の話と同国の人たちと話し、時には日本語の学習もして、いい雰囲気の時と場所になった、と感じました。一方課題もいろいろあります。しかし“継続は力なり！”今後は課題を解決しながら、この日を最初に踏み出した一歩として、皆さんと力をあわせて続けていきたいと思っています。次回は9月4日

(日)です。皆さん、よろしくお願ひします。(後藤ひろ子)

### ◆事例発表会

KFCで日本語を支援していても、情報は自分の活動する曜日や時間帯に限られ、他の教室の様子や仲間の存在を知ることはないと断言しても過言ではありません。

6月17日の事例発表会は介護の部門の人たちが体験を共有するために行っている事例発表会の良さを日本語教室にも生かせないかと奥さんが考えて開催されました。

最初に奥さんがKFCの学習者数や出身国、学習歴を紹介。

次に水曜クラスを担当している後藤ひろ子さんのクラスの活動報告で、前半はグループレッスン、後半はマンツーマンの形態で勉強の進め方や活動から見てきたことを話されました。毎回参加するメンバーや人数が異なることを良いことだと捉え学習者が安心して楽しく話ができる場所になっているように感じました。

シルバーカレッジを卒業された市村重勝さんは【在日外国人の日本語能力】の調査結果を細かく発表なさいました。日本語能力試験の受験者が年々増えていることや学習者が日本語教室に行かない

理由など興味深いものでした。

最後に支援が1年8か月という岡本道代さんが60代のこれまで日本語に触れることのなかった男性のふだんの取り組みを話されました。それはこのところ研修会で私たち支援者がずっと学んできた自己主導型学習（教師主導型学習に対する手法で、学習者主導で学習を行うこと）そのものでした。この学習方法が学習者にとって良いものであったという証明だと思えます。

どの方の発表もすべての支援者に聞いて欲しい情報でした。（高橋 博子）

## ◆漢字学習帳作成中

2016年度に文化庁委託事業として、「漢字の学習帳」を作ることにし4月から支援者5名の協力を得てがんばっています。

まずは、筆運び、画数の数え方、筆順を取り上げ、次に他の漢字の構成部分となる基礎漢字を学習するところまでを考えています。

というのも、長年日本語を学習している人でも漢字に困難を抱えている人が多く、特に非漢字圏の人は漢字の数を増やす方法を知らないように見受けられるからです。

画数の少ない漢字は見て覚えますが、「見て覚える」方法では画数の多い漢字を見分けられない、覚えきれないので、次第にあきらめてしまいます。でも中には覚える人もいますし、私たちもそれなりに覚えてきたので、学習する方法を間違えなければ必ず習得していくはずです。

そこで、自分たち自身を振り返り、知らない間に（学校で意識せずに勉強してきた）、何となく（実際は小学校の教育課程にのっとっている）習得してきたことを振り返り、大人の非漢字圏の学習者にふさわしい学習帳を作りたいと思っています。

7月3日（日）知恵を出し合って作った第一課を実際に試してみる機会を持ちました。「漢字学習カフェ」と銘打った会に3名の子どもを含む8名、支援者7名が参加し、筆ペンを使って筆運びの練習をしました。横線と縦線、斜めの線と点です。この筆運びで書ける12個の漢字を書く練習をしました。覚えるというより筆での書き方を学習した時間になりました。

きれいに書くということに気がいって、支援者の方も声援をおくるように、「うまい、うまい」「もうちょっと長く」とかいう声が行き交っていました。参加者の皆さんは、漢字を覚えられたのでしょうか？

次の日に学習に来ているBさんに「昨日はどうでしたか？」と尋ねると、白板に学習した字を全部書いてくれました。

最初の一課、最初の一步、大きな力を得ることができました。（奥 優伽子）

## ◆最近の日本語学習の状況

今、KFCの日本語プロジェクトでは、一週間に延べ65名の学習者、58名の支援者が活動しています。週に2,3回来ている人もいるので実数は学習者49名、支援者が42名です。学習者の継続状況を調べると、5年以上が2名、3～5年が8名、1～3年が9名、1年未満が30名です。支援者の方は、5年以上が9名、3～5年が5名、1～3年が12名、1年未満が16名です。

日曜日の学習者が増え、机の数が足りなくなったので、5月からKFCの事務所とシューズプラザの会議室と2つに分けて行っています。

最近の傾向として、学習者の年齢層が10代後半～60代と幅広くなってきたこと、事務所やクラスの方の対応言語が増えてきたからなのか、ことばが通じないで困ることが減ってきたことがあげられます。支援者も気負うことなく、日本語を教えながら相手の文化も教わって、双方にプラスの関係を築けているようです。（奥 優伽子）

## ■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

### ◆支援者として関わって

私は高校生の時から、定住外国人子ども奨学金の五期生として、KFCに大変お世話になってます。そして、今は大学生になり、毎週木曜日に学習支援のコーディネーターをさせていただいています。高校生の時、年三回、作文を書かせて頂き、ニュースレターに掲載されました。その時、私は高校生活や勉強の愚痴ばかり書いていた気がします。今回は、初めて支援される側ではなく、支援する側で記事を書かせていただきます。

学習支援を始めてから、一年間が経ちました。私が主に担当するのは中学生の部です。生徒たちは違うルーツを持ち、性格もバラバラです。ルーツは日本ではないものの、日本生まれで、日本語が私よりも上手な子もいます。私は中学校まで日本にいなかったため、日本の中学校の国語や理科についての知識が薄く、教える立場なのに、時には私から子どもに質問をすることもあります。私の担当している中国人の子は、まだあまり日本語がわからないので、いつも日本語をメインとして教えています。ところが、彼女は勉強が苦手で、集中力がすぐ切れてしまいます。何回も同じことを繰り返して教えても、次の週になると、忘れてしまうことが多く、かなり苦戦しています。日本語の文法ばかりではなく、時には言葉カードで語彙を覚えてもらったり、生活ノートに書き方を指導したりして、いろいろと試行錯誤をしながら、彼女との勉強時間を少しでも濃くできるように努力してきました。困ったことはもっとたくさんありましたが、生徒たちと話をし、勉強し、共に成長していくのが徐々に楽しく感じるようになりました。生徒たちが成長した姿を見ると、不思議なことに自分も成長したように感じます。学習を終え、「先生、ありがとう。」と、素敵な笑顔で言ってくれると、うれしくてたまりません。毎回、来て良かったと思うようになります。

6月2日（木）に「先輩から高校と高校入試について話を聞こう」というイベントをいつもの学習時間の後半に行いました。今年高校受験を終え、無事に高校に合格したKFCで勉強していた子たちが後輩に高校や受験のシステムについて説明してくれました。先輩の子たちは高校の制服を着て、大人っぽくなり、すっかり雰囲気が変わったのが印象的でした。特に印象に残ったのは、A子でした。A子の親はあまり日本語ができならしく、A子は勉強だけですら大変だっただろうに、希望校の選択から、高校入試まで、すべて自分でやりきりました。その大変さを乗り越え、胸を張って、後輩に話しているA子は誰よりも自信を持っているように見えました。一方、中三になった受験生の子はまるで「一言も聞き逃さないぞ」と覚悟を決めたように、今まで私が見たことないぐらいの真剣な顔をしながら、話を聞いていました。一年半前、自分が高三の時もこんな顔で受験の説明会を聞いていたかなとふと思っていました。先輩が話を終え、「質問ある人？」と問いかけると、受験生たちは、「はい！はい！」と言いながら、手を高く挙げました。説明会は九時までにも関わらず、九時半になっても、受験生たちはその場を離れようとせず、まじめにメモを取りながら話を聞く姿は、本当に素敵だと思いました。それを見て、とても元気をもらいました。それに伴い、緊張感も感じました。中三に勉強を教えることの責任感を強く感じました。一週間のうち、二時間くらいしか一緒に勉強できませんが、その短い時間をもっと有効に使い、少しでもこの子たちの役に立てたらと思いました。そしてこれからも、この子たちを応援し続けたいと思いました。（司徒 嗣）

### ◆地域の国際化を知ろう～長田フィールドワーク～

5月21日(土)13:00～16:30、子どもの学習支援等に関わってもらおう高校生・大学生を対象とした長田のフィールドワークを実施しました。高校生・大学生20名、教員3名とスタッフ2名の総勢25名の参加でした。

KFC前の広場に集合して、最初は民族教室の運営やコミュニティカフェを運営する「神戸コリア

教育文化センター」で金信鏞さんから活動紹介や在日コリアンの子どもたちの状況などをお話いただきました。学生からは「また今度、韓国料理を食べに来てみたい」という声がありました。次にKFCが運営するグループホームハナに行き、入居者の中国系ベトナム人の方やコリアンの方、様々なルーツを持つスタッフがいることなど話をしてもらいました。その中で、「国籍と母語が必ずしも一致するものではないことを知った」、「言葉が通じない利用者と通訳を介して話したり、絵を使用したりして工夫していることに感心した」という感想がありました。次に西神戸朝鮮初級学校の前で簡単なレクチャーの後、最後はベトナム寺「和楽寺（Chua Hoa Lac）」に行きました。花祭りの前日ということもあり、料理や飾りつけの準備に来られているベトナム人がたくさんいて、普段より華やかなお寺になっていました。ベトナム人住職さんから通訳の方を交えて、建立の経緯やどのくらいベトナムの方が集まっているのかなどお話を伺いました。参加した学生からは、「普段生活しているだけでは、神戸の国際化をなかなか実感できなかったので、今回は良い機会となった」「第3世界に目をむけるだけでなく、自分の国の問題にも目を向けていきたい」「自分が日常的に在日朝鮮人や移民の方々について意識してものを考えたり知識を身につけたりしていないことを痛感し、勉強する必要があると感じた」「マジョリティである私たちの理解が重要であることを再確認し、今後、子どもたちの接し方、考え方に活かしていこうと思います」という感想があり、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援者として活動するにあたって、とてもいい機会となったようです。(志岐 良子)

---

## ■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

### ◆念願の神戸まつりのパレードに参加して

2016年5月15日に神戸まつりが開かれた。

5月15日は青空高い快晴の日で、とても楽しくて忘れられない一日でした。その日パレードが行われたメイン通りと舞台ではいろいろな踊りが演出され、その美しい踊り姿は観ている一人一人を魅了しました。

異国情調溢れるヤンガ踊りは、音楽のリズムに合わせて体を動かす踊りで、一種のスポーツとして捉えられることもあります。主に腰部と臀部を動かしながら、足を少しずつ前に進めます。前に一歩進んだら後ろに半歩を引くという動作を繰り返します。

ヤンガは中国の南宋時代に始まり、すでに1000年以上の歴史があります。当時は中国の北部を中心に流行り、主に旧暦1月15日(中国では「元宵節」という)に出演されました。各地域や習慣によってヤンガ踊りにも地域差があって、各地域でそれぞれ地域色豊かなヤンガ踊りが生まれ受け継がれてきました。その中でも東北ヤンガ、陝北(陝西省)ヤンガ、河北ヤンガ、山東ヤンガが代表的でした。

ヤンガ踊りの歴史の中で20世紀40年代は最も重要な時期でした。当時、中国の共産党は陝北(陝西省)地域で強固な革命の拠点を作り、「新ヤンガ運動」を提唱しました。多くの有名なアーティストたちも「新ヤンガ運動」に加わることになり、そこで斬新な内容のヤンガ踊りが次々と誕生しました。中華人民共和国が誕生した後、「新ヤンガ運動」は全国に普及しました。以降伝統の祭りや大きな祝賀行事にはヤンガ踊りが欠かさず登場するようになりました。

ヤンガ踊りの愛好者の一人である私は、ヤンガ踊りの楽しさを十分体験しています。

またヤンガ踊りは身体を鍛えるだけでなく、人をリラックスさせ、元気付けてくれます。そして、踊る人達のチームワークと強調性を高め、人々を団結させる力を持っています。さらに、中国の伝統文化を日本で広め、日本と中国の文化交流を促進する役割も果たしていると思います。

普通の一人の中国人として、日本で自国の伝統文化を披露できたということはとても光栄なことだ

と思います。「芸術には国境がない」と言われているように、もっと多くのヤング踊りの愛好者たちが世界の舞台上でヤング踊りを披露できることを願っています。（村上 書華）

## ■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ■■■

### ◆知的ポイント制度

今年度より知的ポイント制度が導入されました。導入されるにあたってまず「えっ？何？」って正直思っていました。

小学生の頃から「本」が嫌いでマンガも読んだ事ありませんでしたが、活字を扱う仕事をした頃より文字（文章）に興味を持ち「本」を読むようになりました。「本」と言っても殆どが推理小説だったと思います。もちろん「マンガ」も読むようになりました。介護の仕事をするようになってからはやはり「介護」に関する本を読むことが多くなってきたように思います。学生時代だと情報は与えて頂けますが、社会人になると「情報は自ら取りに行くもの」だと思います。「本」から得る事も大事だとは思いますが、老眼にさしかかり活字を見るのが辛くなってきました。今は、耳で聞くスピードラーニング中国語にトライしていますが・・・。

本だけではなく生の情報を得たいと思い色々な研修会にも参加をしています。研修会への参加は情報を得る事に加えて、同業他社の人たちとの出会いの場でもあり情報交換の大切な場でもあります。今でも研修会であった人達と連絡を取り合って情報交換をし「頑張ろう」と思える場でもあります。認知症ケア専門士の資格を更新する（5年で30単位）にも研修会への参加が必要で大阪や滋賀に行ったりしています。グループワーク型の研修では初対面であるにも関わらず活発なディスカッションができて、「あ～私はまだまだやなあ」と思ったり、「あそこの施設を見学してみたい」と思ったり、「兵庫県や神戸市は他の市町村と比べて厳しいなあ」と思ったりします。これらの研修内容を、どう文章化してどう説明すればいいか。どう可視化するかが私自身の課題だと思います。

今回、100ポイント第一号と言われてこれまた「えっ？」なのですが、今回はハルモ二達と行った韓国ツアーが大半を占めたと思います。ボランティアでの参加ですが、私が介護を職としたきっかけは阪神淡路大震災でボランティアとして参加させて頂いた事で震災当時とはニーズも活動場所も異なっていますが、現在も月1回ではありますがボランティア活動を継続しています。私のポリシーとして「ボランティアは言われなくてもする。だけど、言われてもしない」があります。だから20年弱の間続けられたのだと思います。（星野 敬子）

### ◆小規模多機能とは？

小規模多機能とは何だろう・・・。まず八ナを選んだ理由はそこでした。学校では習いましたが細かくは記載されておらず漠然とした知識でしたが、要するにデイサービス、ショートステイ、訪問をひっくるめたものなのだろうと単純に考えていました。実際に働き始めてわかりましたが、とてもサービスの境界が曖昧でどこまでのサービスができるのか逆に言えばどんなサービスでも出来るのでは、なんて疑問になる事も多々ありました。とはいえ現状では色々と縛りがあり、人員が足りない等で出来ないことも多いですが、その範囲内であれば意外と様々な事が出来るので遣り甲斐もあり、楽しく仕事が出来ています。以前は別の所のグループホームに居ましたが、兼ねてより色々な業態にチャレンジしてみたいと思っていたので勉強になります。更に八ナと云えば多国籍！ここが当初は一番に苦労しました。お国柄も違えば言葉も違う習慣、風習の違いと数え上げたらきりが

ない、入った当初には言葉が解からないから利用者様が話しかけて来られても会話が成立せず呆れられたり、理解されずに怒らせたりということも何度もありましたが、少しずつ覚えていくと信頼関係なのか慣れなのか徐々に打ち解けていき言葉の壁を乗り越えられました。それでも話せたら良いのになということも只今、利用者様に講師をしていただき、小規模スタッフで勉強中です。色々な事が出来ています。昨今デイサービスセンターハナの会にも応援に行っていますが利用者様も元気で明るい良く喋る（笑）、教養、体操、ゲームにカラオケと勢力的に活動されていて驚かされました。意外にも皆さんが進んで何事もされていること、やはり在宅であり続けるのは大切なのだと実感しました。最後になりましたが小規模多機能という業態は工夫すれば未知なる可能性があると思いますのでスタッフ一丸となって同じ目標を持って励みたいです。（野津 隆司）

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆毎週木曜日ベトナムデイ

KFCでは2013年7月に神戸市在住13名ベトナム人高齢者への訪問調査を実施しました。その調査をもとに、2013年12月から約月一回ベトナム人高齢者交流会を行ってきました。家に引きこもりがちなベトナム人高齢者たちに外出の機会を提供することで、みなさんが気分転換をはかり、いろいろな情報を知り、楽しい時間を持つことが出来るのではとの思いから始まりました。

その後、2016年4月からは、デイサービスセンターハナの会とKFCベトナム人高齢者支援事業グループが協力しあい、在日ベトナム人高齢者を主な対象に、毎週木曜日「ベトナムデイ」を開くことになりました。

朝来られたら、ベトナムの音楽をかけながら、男性チームはドミノを始めます。ドミノはベトナムでお正月に徹夜で遊ぶこともあるとのことですが、ここでは遊び出したら夢中になり、ベトナム語でのやり取りが激しく、時には笑い声が聞こえてきます。現在、スタッフやボランティアもドミノができるようにはなりました（初心者レベル、笑）。女性チームは、おしゃべりを楽しんだあと、塗り絵をしたり、間違い探しに挑戦したりしています。その傍ら、スタッフの介助でヒノキのお風呂に入る方もいます。10時30分になると、ベトナム人スタッフと共に1時間以上みっちり体操をします。体操はベトナム語で行われ、その終わりあたりで、みんな一斉にベトナムの歌を歌いながら行う運動がベトナムデイの最高の盛り上がりになっています。

12時になるとみんなでおいしいベトナム料理を食べます。担当の石田は食材選びから作る過程まで、プロ意識が高いベトナム人で、メニューも多彩で非常に人気です。この後、自己紹介の文章がありますので、ぜひお読みください。

昼からは男性チームは早速ドミノを始めて、女性チームはババ抜きとベトナムの遊びトゥサック（ベトナムの四色象棋牌Tu Sacです）をして過ごします。カラオケ好きな方はベトナムのVTRに合わせてマイクで歌を歌います。2時になるとコーヒーやおやつを食べて、2時半に帰ります。その様子を、料理を中心に手伝っていただいているボランティアさんが「ベトナムデイの日、一步部屋に入るとベトナム語が飛び交い、ベトナムの音楽やVTRが流れ、お昼はおいしいベトナム料理。みなさんの笑顔を見ていると、この日が楽しみな一日となっているようですね」と話してくれ、こちらも嬉しくなりました。

第一、第三木曜日に、KFCが運営するグループホームハナに入居しているベトナムの二人も、皆さんとの交流やベトナム料理を楽しみに来ています。

運営のための人員確保やプログラムの充実にも努めるとともに、ベトナム人以外の利用者も楽しく利



用できる環境作りに励んでいます。孤立しがちなベトナム高齢者の居場所づくりというKFCの新たな挑戦は始まったばかりです。（呼和徳力根）

## ◆ベトナムデイの食事作りを担当して

私は、毎週木曜日のベトナムデイで、食事作りを担当している石田ゆり子です。当日は、8時半ごろから準備をはじめ、毎回20食くらい作っています。

メニューを考え準備を始めるのは、だいたい火曜日からです。食材の値段や質を見ながら、いくつかの店を回ります。ベトナム料理のスープづくりは4～5時間かかりお昼までに間に合わないのので、前日家で準備することもあります。また、考えたメニューを一度家で作ってみて、工夫することもあります。

ベトナムデイには、元気な方ばかりでなく、いろいろな症状を抱えた方も来られます。食べにくい方には、介護士さんのアドバイスで量や大きさなどを考えて用意します。

前もって聞いていた人数が当日変わることがあり、慌てることもありますが、残さず食べてもらい、「おいしかったよ」と声をかけてくださる時が一番うれしいです。私は、料理が大好きです。これからもおいしい食事作りをがんばります。（石田 ゆり子）

---

## ■■■ 今後の予定 ■■■

### ■日本語プロジェクト

9月4日(日) 日本語カフェ  
於 デイサービスセンターハナの会

### ■KFC帰国者新長田交流会

7月19日(火) 農業体験  
7月26日(火) 暑気払い  
9月13日(火) 敬老会

### ■KFCみんなのダイニング

7月1日(金)～毎週金曜日  
於 デイサービスセンターハナの会

### ■「多文化共生」を考える研修会2016

8月17日(水)「総論」  
8月19日(金)「外国にルーツを持つ子どもの教育」  
8月22日(月)「世界の難民・移民とシティズンシップ」  
8月26日(金)「外国人当事者のエンパワーメント」